薬師如来に護られている山形県立中央病院





■山形県立中央病院

2001年5月1日、山形市桜町に所在した旧病院(現:県民ふれあい広場が整備)が老朽化したことから山形自動車道山形北IC 近接し、県内を縦断する幹線道路である国道 13 号も至近に整備されていた同市北部の青柳地区に新築移転して診察を開始した。翌年11月9日には、山形自動車道に新たに設置された救急車緊急退出路の運用も開始されたことから救急車によって直接中央病院への進入もできるようになった。

山形市青柳 1800 番地



■出羽国分寺薬師堂

聖武天皇が天平 13 年 (741 年) に発した国分寺建立の詔に基づき、当時の 出羽国に建立された。創建期の寺院は、9 世紀に出羽国府が置かれた城輪柵 の近隣に位置し、その跡地は国の史跡「堂の前遺跡」(酒田市法連寺)に比定 されている。発掘調査の結果、伽藍配置は一般的な国分寺と異なり、寺院中 軸線の西に塔、東に金堂を配する特殊な形式であったことが判明している。 この配置は延暦 24 年 (805 年) の焼失後の再建時に形成されたとする見方 が有力である。



平安時代後期以降、国府機能が内陸の山形(現在の山形市)へ移転するのに伴い、国分寺もその地に移ったとされる。これが現在の出羽国分寺薬師堂(山形市薬師町)であり、天台宗の寺院として法燈を継承している。室町時代の長禄2年(1458年)には法燈が山形に移っていたことが確認されており、その後戦国時代には最上義光の庇護を受けて現在地に移され、山形城の鬼門鎮護の寺院として発展した。山形市薬師町二丁目 12-32

■風間 薬師如来堂

1764年(明和元年)に建てられ、3間四方(約5.4m)の正方形の大きさで貴重な彫刻を見ることができます。 鎌倉期(1203~1326年)の慈覚大師によって作られたという薬師如来像があります。

●グーグルマップのコメントにも書いている方がいるが、以前に調べた時に 出羽国分寺薬師堂の奥の院だと紹介されている記事があったが、いくら探し ても出てこなかった。だとすれば創建はもっと古いはず。如来像も鎌倉期とな っている。



■新宿薬師如来堂

創建年は不明。薬師如来を祀る東善寺 瑠璃殿(堂)は、宝永5年(1708)の棟札から、羽黒山修験の末寺で豊龍神社(宮宿)を祀るもと東守寺の配下寺だったことが分かりました。木造薬師如来立像は平成5年に山形県有形文化財に指定されました。地方仏師の手によって、平安後期に造顕されたものと考えられています。『蒙古録』では、天地天皇の時代(662~71)京都誓願寺の本尊阿弥陀如来を造立した際、その余材をもって作り瑠璃殿に納めたとされています。毎月8日が"おようが"と呼ばれるお参りの日とされ、例祭は5月8日だったが、現在は第2日曜日に新宿区民をあげて賑やかに行われています。山形県朝日町新宿

※サイトあさひまちエコミュージアムより抜粋

- ●グーグル地図上に記載はないが、現地を訪ねて緯度経度で位置を確認した。
- ■日枝神社 詳細不明 山形県天童市塚野目甲382







●風間の薬師如来堂と朝日町新宿の薬師堂をつなぐライン上に中央病院はある。そして出羽国分寺薬師堂と天童市塚野目にある日枝神社をつなぐライン上にある。しかも、やや左に傾くがこの4社はほぼ東西南北に位置している。こんな偶然はあるのだろうか。中央病院は重症患者を対象にした病院でかかりつけの医療機関からの紹介状が必要とされるらしい。山形県で最も高度な



治療をする公立病院と言える。実際に中を見てきたがラインが交わるあたりには、様々な検査施設がある中枢的な場所であり二階には講堂もあった。

- ●北にある日枝神社のみ「薬師如来ではない」と思われるかもしれないが、日吉神社の御祭神大山咋神 (おおやまくいのかみ)の神仏習合時代の<u>本地仏は薬師如来である</u>。はたして、中央病院建設の時に県の担当者はこのことを知っていたのだろうか。薬師如来様の厚い思し召だろうか。
- ●通院・入院なさっている方やご家族はこの四社を巡礼されることをお勧めする。そして入院されている方は病棟から東西南北に向かって毎日祈られることも。風間の薬師如来堂は目視できる。病棟の中に四社を遥拝できる窓を掲示しておけば患者の心の拠り所となるのではないだろうか。

(2025年11月1日 竜天太陽記)